

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3771100777		
法人名	特定非営利活動法人 すばる		
事業所名	すばるグループホーム		
所在地	香川県東かがわ市馬篠333番地14 (電話)0879-25-3282		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年11月25日	評価決定日	平成22年1月21日

【情報提供票より】(平成21年10月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年10月25日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤	5人, 非常勤 6人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造銅板葺き 造り		
	2階建ての 階 ~ 2階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(平成21年11月25日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 88歳	最低	71歳	最高	100歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	近藤内科クリニック、軒原内科医院、さぬき市民病院、県立白鳥病院、 ごうだ歯科、山本内科クリニック、白鳥皮膚科クリニック、大森医院
---------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の今までの生活歴を大切にしてお互いに家族のような関係を築き、好きなことが言えるような関係を作っていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は前の建物構造を生かして、広いフロアで日々様々なレクリエーションをして午前中を過ごしている。ピアノにあわせて歌い、いきいきとした利用者の笑顔が見られる。食事時間に合わせて移動する空間が広く、リハビリテーションになっている。2階部分のみの移動で利用者が自由に外で歩くことができない環境でもある。管理者、職員は「家族の関係を作る」ことを大切に実践し、利用者、職員間の人間関係もよい雰囲気がうかがえた。周辺は店舗で夜間が無人となり、民家は隣の1軒のみとなってしまう。災害等の避難も鑑み、構造上難しい問題ではあるが、容易に階下へ移動できる工夫が望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	すばるグループホーム 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者は人生経験を大切にしながら共同生活をしている。 職員は理念を理解し常に実践している。	管理者と職員が話し合い、事業所独自の理念をつくりあげている。職員は一人ひとりを大切に思い接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が難しい立地条件のホームであるが隣接する喫茶店には入居者と一緒に利用してお茶の時間を楽しんでいる。地域の秋祭りのやっこ、獅子などを受け入れている。	年2～3回程度、隣接する喫茶店でお茶の時間を楽しんでいる。ボランティアによるカラオケやマジック、地域の秋祭りのやっこ、獅子などを受け入れている。	利用者は地域の方が多く、今までの地域の暮らしの中でのつながりを継続できるような支援や、地域活動の情報も得て、地域に参加できる活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会時には家族に伝えているが、職員が習得したケアの方法を活用しきれてはいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度行って、老人会、自治会、介護相談員、市役所職員を通じて地域の方と意見交換をしてサービス向上に努めている。	2か月に1回、定期的開催されている。構成メンバーは老人会長、自治会長、介護支援相談員、市役所職員、陶芸教室講師等が参加して事業所の報告や外部評価報告、委員から意見交換など双方向の会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員の方とは、日頃より必要に応じて、入居者の様子など伝えて協力関係を築いている。	最近では成年後見制度の利用で、連携を密に持っている。日頃から事業所の問題について連携・協力関係を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に対して理解して基本的には行っていない。施錠については2Fで職員・面会者の出入口のみ錠をかけている。	居室が2階にあり、出入り口につづいて直ぐに急な階段の構造になっている。1階部分は昼夜を通して無人になることから2階の出入り口に施錠している。	2階は空間が広く、開放的であるが、利用者が自由に出入りできる構造上の工夫が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護の基本的姿勢として職員は理解している。		

すばるグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者には、社会福祉協議会と協力して支援している。制度面の事を今後も職員と話し合っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、十分説明を行い理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時には近況を報告して家族とコミュニケーションをはかっている。	家族の面会時に意見や苦情を聞くようにしている。介護上で困っていることは家族と話し合い、対応を相談して記録に残している。意見箱の利用はあまりなく、今年から家族会を開催している。	意見箱は書記する場所がない所に設置されているので、机等の工夫を望みたい。今後は家族会を定期的に持ち、更なるサービス向上を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の事はカンファレンスでたくさんの意見を反映できるようにしている。日常的な事は日々の中で改善している。	管理者は常に職員の意見を聞く姿勢があり、消防訓練時に指摘された居室の「確認済み」の方法についても、直ぐに話し合って工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加の機会には職員に声かけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に合わせて研修を勧めている。新しい職員には熟練した職員が指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に所属して研修会などに参加してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

すばるグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	帰宅願望時には、その気持ちを察して一番その方が信頼していることを言って安心してもらう。一緒にお茶を飲んだりする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には、施設の雰囲気など見てもらい、一緒にお茶、昼食などを取っている。自宅にも面接に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には、本人の家族が困っていることを施設側は理解できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者の間でも出来るところは積極的に手伝ってもらいお互いに家族として日々の生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の一方的立場でなく家族の思いを大切にしながらケアに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアで来所してくれている人の中に入居者の近所の方がいる。その方もホームに来るのを楽しみにしている。	利用者の手袋を作っていた技術を、つぎはぎなど日々の生活に活かしている。ボランティアや入居者家族との関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のような関係ができあがりつつある。お互いに好きなことを言い合える関係ができています。		

すばるグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は見舞いに行ったり、家族と連絡をして相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向に出来るだけそえるように努めている。健康面も考慮している。	日々のかかわりの中や、表情からくみ取って希望にそえるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所で困ったことなどは、家族に相談し助言してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時、入所後も現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族の面会時、かかりつけ医の訪問診療時、話し合い意見交換をして介護計画を作成している。	本人・家族からは日々のかかわりや面会時・電話の相談などで意見を求めている。職員はカンファレンスや日々の申し送り時の情報などを出し計画している。急変時の見直しも適宜できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を中心に日報に記録することで職員間での気づきや情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが新しくできたり変化したときは、それに対応して必要なサービスを提供するよう取り組んでいる。		

すばるグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接した喫茶店やボランティアの人達と交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、定期的な訪問診療で健康管理を行っている。何かあれば相談し紹介してもらっている。	入所前のかかりつけ医の定期的な訪問診療や、状態の変化時の往診など、複数の医療機関と密な関係を取っている。必要時は通院介助し、結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の心と身体の変化など、具体的に情報提供したり相談し健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したら面会したり担当者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、本人、家族、かかりつけ医と十分に相談、話し合いをしている	昨年、家族の意向にそって看取りを経験している。入居者や職員にとっても終末期のあり方等を考える機会となった。	看取りの経験から、事業所としてできることの見極めもできている。この経験を活かして早期から重度化・終末期について本人・家族、かかりつけ医、職員での話し合いを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスにて年1回消防署による、消防訓練、応急手当での訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣の喫茶店とホンダにお願いしている。運営推進会の方々にも協力体制をお願いしている。救急連絡網を作っている。	消防訓練は消防署の協力と事業所独自の年2回実施し、利用者も参加して避難経路を確認している。夜間は地域が無人に近く、消防署の協力体制が欠かせない。水は備蓄している。	

すばるグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者の人格を尊重して声かけを行っている。	ことばかけや話し合いでは、誇りやプライバシーを損ねる対応は見られなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者の希望を聞いて誘導している。 入居者の意見を聞きながら洋服を選んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせていないが、ホームの日課を中心に幅をもたせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の中には口紅を付ける方やヘアバンドをする方がいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえのじゃが芋の皮むき、ネギをきざむ事は一緒にしている。おやつの後片付けなどをしている。	利用者それぞれの力に合わせて、準備やかたづけを行っている。職員も一緒に利用者と一緒に楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康面を考えながら食べる量をかかりつけ医と相談して支援している。 入居者の方にはお汁にニンニクを入れる方がいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人別実施している。歯科衛生士さんが3か月に1度診察に来ている。		

すばるグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者はいない。 日中排泄パターンを把握出来ている。 職員は排泄表を活用している。	ひとりで排泄ができる方が4名いらっしゃる。他の方は排泄表を利用して排泄パターンを把握し、紙パンツを使用して自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物、水分補給、運動などに個々に取り組んでいる。3日以上は便秘しないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者は午後より入浴している。入居者の希望に合わせて最初にしたり、最後にしたりしている。	基本的な一日の流れで午後に入浴時間を決め、ほぼ隔日に入浴している。冬期は入浴日でない人や入浴しなかった人に足浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が横になりたいと希望する時には、横になって休んでもらっている。午前中はレクリエーションなどを楽しんでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの内服薬について、個人の管理している箱に書き出し、職員全員に分かるようにしている。服薬変更時や症状の変化時は、申し送りや日報で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際には、昔から習慣にしている嗜好品を用意したり、季節に応じた行事や食事のメニューを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員とは言えないが、本人または家族の方が外出を希望する際は出かけている。地域の人々と協力しながらの点は十分ではない。	本人の希望がある時は2～3日後に計画して出かけている。行事での外出や年2回程度の近隣喫茶店への外出支援をされている。	入居者の気分転換やストレスの発散、五感刺激のためにも短時間でも外出の機会を持つ支援を期待したい。

すばるグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員はお金を所持していないが、一部の方がお金を所持し、家族面会時や個人の物品購入時等は使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した際は電話で家族や親戚とのやり取りができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に不快や混乱をまねくような物はない。衣類等の衣替えをし、旬の食材を使った食事、行事、壁画作りをしている。	自然光が差し込む共用空間は、仏壇、テレビ、ソファを置いて広さが十分に保たれている。午後は食堂に続く居間で思い思いの過ごし方をしている。中庭には鉢植えが置かれていて季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆったりと横になったり、気の合った利用者同士となりに座ってゆったり雑談ができるような空間、居場所作りはできている。落ち着いて話ができるよう、お茶等を出している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談、話し合いをしながら、入所前から使っている物やテレビ、仏壇、写真、老人車、衣類等を持って来てもらい、安心して居心地の良い居室作りに努めている。	家具やタンスは使い慣れた品々を持ち込んでいて、居室も広く過ごしやすい環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室前には大きな文字で場所を示し、できるだけ混乱をまねかないようにしている。共用空間の中で転倒につながるような物を置かない環境を作り、移動の自力につなげている。		